

平成28年度第一回森林環境保全基金運営委員会 会議要旨

開催日時 平成28年6月23日(木) 9時30分～12時00分
開催場所 高知共済会館 「藤」
参加者 (委員)
堀澤栄委員長、松本美香副委員長、有光尚委員、岡村好文委員、
門田芳穂委員、川村純史委員、川村幸司委員、時久恵子委員
※欠席委員 林須賀委員、森本正延委員
(事務局：高知県林業環境政策課)
上岡課長、田渕課長補佐(木の文化担当)、東主幹、亀川技師
(事業担当課)
鳥獣対策課：川久保チーフ、宮崎主幹
木材増産推進課：大黒チーフ、森本技師
木材産業振興課：竹崎課長補佐、川村主査
環境共生課：貝川チーフ、久保主幹
高等学校課：國廣指導主事、中島主幹
生涯学習課：倉松主任社会教育主事

1. 林業環境政策課長挨拶

2. 議事

【1】平成27年度森林環境税活用事業の実績報告について

～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員長)

資料P2の⑨の成果だが、説明では目標に対して88%の実績とあるが、何に対して88%なのか。目標値と実績値でみると96%になるが。

(事業担当課)

88%ではなく、96%の間違いである。

(副委員長)

資料のP 3の⑦の箇所の実績面積 1,225ha で目標値は 1,565ha とあるが、別の箇所の実績は 1,226ha であり、小数点の問題とは思いますが、実績は 1,226ha として理解して構わないか。

(事業担当課)

構わない。小数点の処理のため違っている。

～シカ捕獲推進事業(鳥獣対策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

この予算事業とは関係ないが、市街地に迷い込んだシカを捕獲し、山に帰したというニュースがあったが、それに対して抗議があったとの話はなかったか。

これだけ捕獲のために予算を投入しながら、迷い込んだシカを元に戻して良かったでいいものなのか。

(事業担当課)

本当に困っているのは林業者・農業者であるが、大多数は町に住んでいる方なので、皆が同じ意識でないため、そういった方に農業被害が多くあることを理解してもらえない。

(委員)

そのことに対して、懸念しているグループが居ることをPRしてほしい。

(事業担当課)

森林環境税を活用しているので、今後PRしていく。

(委員)

税金を投入しながら、保護することがクローズアップされるのはいかがなものか。

(事業担当課)

全国的にも問題になっているので、対応は必要と考える。

(委員)

くくりワナによる捕獲事業を使った人の意見ではとても評価は高い。これで捕獲した方もおり一定効果があるが、これからも、もっとやってほしいとの要望はあるか。

(事業担当課)

一人がワナを 30 個まで仕掛けられるが、費用的に一人 30 個は配布することができないので今回新規に配布したのは一人 2 個までとした。

ワナの費用が高いこともあり、継続の要望があるが、今後必要であれば補助等を活用することも方法としてある。

今回、無料で配布するのは 3 年間とし、今後は要望を聞きながら新しいことを考える。

捕獲実績としては、この 3 年間配布し、平成 27 年 12 月末現在で、累計で約 5,100 頭捕獲している。平均すれば、1 年間で 2,300 頭捕獲しているが、熟練度の問題なのかすべてのワナで捕獲はできていないが、今後は慣れてくるため、捕獲数は増えてくると思われる。

また、配布したワナは鉄製なので何回でも使えるが、ワイヤー部分は傷みがあるので交換が必要となる。

(委員)

今後の検討をしているようなので、猟友会としては期待が持てる。ワナは改良を重ねるたびに良くなっているので、今後補助事業で行うようであればもう少し研究してもらいたい。今配布しているタイプは当初から大分改良され捕獲頭数も増えている。

また、三原村方式のワナは仕掛けが簡単なので、数多く捕獲できている。ただ、もう少し大きなタイプであればイノシシにも兼用できる。

(事業担当課)

3 年間行って利用者の意見を聞き改良を重ねてきた。今後もしろいろな意見を聞いたうえで改良をしていきたい。

また、三原村方式のワナも、少ないが今回配布した。また、タイプは 2 種類あり全国版の 12 c m 以外にも、県内で使う分の大きいタイプも販売している。

(委員長)

PR がもうちょっと必要なことと、3 年間でワナも改良されており、森林環境税を使ってこのように利用されていることは大変良かった。

ただ、評価としては事業としてももう少し成果を集約してほしかった。

他に意見はないか。

(副委員長)

利用者の意見の集約を県庁の中だけで利用するのは勿体ない。

捕獲技術講習会でも参考にしているようなので、公開、配布できるパンフやホームページに載せるなど、実際にいろんな方が参考にできるよう、知識の共有化を図ってほしい。

(事業担当課)

今回配布したワナは、他部局と連携し工業振興課の「新事業分野開拓者認定制度」を活用して製作された。今後は改良点などの意見を集めて連携先である工業振興課のホームページに公開されるのでアピールしていきたい。

～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(副委員長)

資料のP 8の実績で、防護柵設置数が中間値より減っていることと、効率指標は資料では19,955円の実績であるが、説明では19,481円であったがどちらが正しいのか。

(事業担当課)

防護柵の設置については、中間値の時点は計測したものでないため、実際に設置すると多少の狂いが生じたことで実測したら5mの差が出た。

また、設置に係る経費は資料の19,955円が正しい。

(委員)

防護柵の設置費用で、1m当たりの経費はボランティアの人件費を含んだものか。

(事業担当課)

ボランティアの人件費は無償であるため、設置費用には含まれていない。

(委員)

ボランティアの人件費を経費に含めていないのであれば、他の事業地の参考にならないのではないか。実施にはこれ以上かかるということか。

(事業担当課)

設置条件も悪くなるとこれ以上に経費がかかる可能性はある。

(委員長)

今後もヘリコプターを使うような所が増えてくるか。

(事業担当課)

今後も、山頂付近でやろうとすれば人手では資材が運べないので、今回のように森林管理局の計画を聞いたうえで、その機会があれば便乗させてもらいできるだけ費用を安くしていきたい。

(委員長)

安くすることは必要であるが、今後は施工が難しい箇所も増えてくるのであれば、必要な予算は計上してほしい。

(委員)

資料のP8の評価の結果の項目で沢山守るべき箇所がある中で、評価の結果で妥当であると、概ね妥当であるとの微妙な違いはなにか。

(委員長)

評価がしづらいが、保護している成果は上がっているが、ヘリを使ったことで予算が増えたところが「概ね」なのかと理解はしている。

(事業担当課)

希少野生植物を守ることの効果はあったが、何箇所も保護することができないため、「概ね」とした。

(副委員)

資料のP8にある効率性の箇所で、大規模な修繕を行ったため経費が必要となったとあるが、大規模な修繕は調査を請け負ったコンサル業者が行ったのか。

(事業担当課)

そのとおり。モニタリング調査を請け負ったコンサルが修繕を行った。

(副委員)

調査を行ったコンサルは、大規模修繕を効率的にやれる業者なのか。

(事業担当課)

修繕とか、そういった作業に慣れている業者であったため、実施することができた。

(副委員)

これからは、どんどん事業を進めていくと修繕対象地が増えるため、その事も検討の中に入れておかなければならないのでは。

また、慣れていた業者であったので非効率ではないのか。

(事業担当課)

そのとおり。

平成 28 年度で計画している箇所は、柵をすべてやり替える必要があるが、そういったどうしても何人役も箇所であれば調査する業者ではできないため、森林組合等にお問い合わせする予定である。

～環境学習推進事業(事業担当課:生涯学習課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員)

資料の P 9 の⑦にある、体験活動推進事業であるが、先ほどの説明では地域の少年団体へ派遣したとのことだが、平成 27 年度の実績では小学校だけの記載であり、少年団体へは派遣していないのか。

(事業担当課)

そのとおり。小学校のみである。

(委員)

地域の少年団体等へ派遣したとあるが、数字的に辻褄が合わないのではないかと。

(事業担当課)

数字的には、学校への派遣としているが、実際には子ども会での活動であったことから、そのような地域の少年団への派遣という説明をした。

(委員)

そうであれば、了解した。

(副委員長)

同じ箇所の質問であるが、体験活動推進事業は他の事業である山の学習支援とは違うからこそ、この事業でやると思うが、そうすると自然体験活動指導者研修の修了者のスキルア

ップの場がすごく大事となる。この研修での修了者の参加が見えにくいので補足していただきたい。

(事業担当課)

体験活動推進事業での講師派遣は、昨年度から始めた事業であるため、指導者養成研修での受講者が講師として参加できていない。

また、受講者が 21 名から 11 名に減っているのは上級者向けの講習であることから、年々資格を取る方が多くなり、現状では受講者が少なくなっている。

尚且つ、修了者の多くが若い方で仕事を持っていることから、平日の昼間に行う事業になかなか派遣できなかった。

今回の事業による講師は、仕事を退職した方等にお願ひし、派遣活動を実施した。

(副委員長)

その辺りが事業の意図とズレているので、それだったら修了者が休日参加できるようにするのが基本だと思うので改善してほしい。

～高校生森林環境理解事業、高校生後継者育成事業(事業担当課:高等学校課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員)

資料の P 1 4 の⑩で、全体で 40 名の方が資格を取り、うち 4 名が林業関係に進んだとあるが、他の生徒の進路先の状況はどうか。

(事業担当課)

進路先の情報を頂いているのは一校だけであるが、主な就職先としては食品関係、製紙会社、遊戯関係など、学校であれば専門学校や短大などとなっている。

林業関係であれば製材工場などへ就職されたようである。

(委員)

資料の P 1 4 の⑩で、総合評価は A だが、先ほどの説明では受講の要望が多いが、受講先のキャパの問題で受講できないのであれば、受講先の人員や機械を増やすなど、林業関係の部署ともっと連携をとるなどしてはどうか。

(事業担当課)

受講期間が5日間であるため、森林環境税だけではなく違う部署の予算からも施設利用料などに対して、研修センターへの支援をいただいている。

生徒にしてみれば、テキスト代だけで資格を取得できることから、大いに助かっているとの学校からの回答がある。

(副委員長)

卒業生の進路先として、県外、県内の割合がどれくらいか。大まかな数字で結構だが。

(事業担当課)

県内の方が就職先は多い。ただ、大学となれば県外が多い。

また、全ての学校を集計したものはないが、一校だけの数字ではあるが県内が6、県外が4割となっている。

(副委員長)

バックホーの資格は農作業とか、高知の中山間では重要なスキルであることから、そういう意味では家での作業でも使うようであればプラスの効果となるのでは。

受講先の問題もあるが、若しくは補助の対象のなかで他の事業と重なっている部分もこの中に入れていくことも考えてはどうか。

(事業担当課)

予算関係で、学校としてはクラス全員に資格を取得してほしいが、研修期間が5日間であることと、夏休み期間中であるため部活動などで参加できない子もあったことが影響したため、執行率は低い。

～山の学習支援事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(副委員長)

4市町村が撤退した理由はなに。

(事業担当課)

平成26年度に実施した4市町村は申請が各一校ずつであったため、各学校から申請がな

かったことで市町村が減少した。

また、各学校が撤退した理由は資料がないので判らない。

～森づくりへの理解と参加を促す広報事業(事業担当課: 林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員)

森林環境税のチラシの件で、認知度を上げるための参考であるが、チラシに「QRコード」等を表示させるなどすれば、もっと若い人に対しても森林環境税の理解向上をお金を掛けずにできるのでは。

(事業担当課)

そのようなことを参考にして、第四期に向けた取り組みもあるため、若い子にも伝わるような仕組みも考えたい。

(副委員長)

イラストについて、どういう場面で活用するのか？

(事業担当課)

学校の教材として、森林の機能を子ども達に分かり易く伝えるために作成した。

画像データであるため、いろいろな場面でこのイラストを活用し、森林環境について理解していただければと考えている。

(事業担当課)

我々が、様々な場面において森林学習の機会を通じてこのイラストを活用することもできるし、一般の方も気兼ねなく使用できたらと考え、県のホームページにも載せて自由に活用していただきたいと考えている。

(委員)

ホームページには画像として掲載するのか。

(事業担当課)

はい。PDFデータでもJPEGデータでもいいように掲載する。

(委員)

それなら、このイラストの文字の部分をクリックすると、その情報が流れる仕組みがあればいいのではないか。

(事業担当課)

作成するのにコストがかかるかもしれないが検討する。

(副委員長)

中学生にも活用とあるが、その利用の場面が設定されてなければ使い勝手が悪いのでは。また林野庁の広報などの資料は一般的に活用できるのではないか。

(事業担当課)

林野庁などの広報資料は、中には目的外の使用ができなかったり、著作権の問題もあるため、難しいこともあると聞いている。

(副委員長)

試験研究に関しては著作権の扱いは緩いのではないか。

(事業担当課)

詳しくは分からないが、過去に資料作成の際、画像を無断で使用との指摘がされたことがあったようなので、極力使用したくないこともある。

(委員)

このイラストの作成は画像であるため費用が高いとあるが、普通の発注の仕方よりも高くなるのか。

(事業担当課)

チラシなどであれば1枚当たりとなり、安くなるが、今回は、納品の方法が部数ではなく、一式での納品としたために単位当たりの費用が高くなっている。

(委員)

データの使用に関しては、普通に仕様書の条件として入れておけばいいのでは。

(事業担当課)

仕様書では県が管理することとしており、成果物のCDでの納品とした。

(委員長)

私は小学校などの授業にそのまま持っていけるレベルで、良くできていると思う。
それで、ぜひ学校の先生などに周知していただきたい。

(事業担当課)

了解した。

(委員)

ホームページからのダウンロードではなく、学校へ送ってもいいのではないか。
また、データで学校に送ってもいいのではないか。

(委員)

中身は本当にいいと思う。
よくある資料は、文字を書きすぎていて大変見づらいが、このイラストは非常に単純でいい。

(委員長)

直感的に分かりやすいと思う。

(委員)

データとして納品されたのはPDFデータか。

(事業担当課)

画像データとして納品されており、サイズは自由に変更が可能である。

(委員)

今のニーズのかたちであれば、もしかしたら文字のない画像もあればいい。

(事業担当課)

両方ある。文字なしと文字ありの画像データがある。

～こうち山の日推進事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(副委員長)

資料のP 22の⑩の総合評価にある、森林・山村多面的機能発揮対策交付金が来年度廃止か形を変えるなどした場合、来年度どうするのか。

(事業担当課)

森林・山村多面的機能発揮対策交付金が廃止されれば、今休止している森林環境税を活用する森林ボランティア活動事業を復活させるか、森林・山村多面的機能発揮対策交付金が形を変え残るとなれば、森林環境税で支援することも検討するが、森林・山村多面的機能発揮対策交付金について国から具体的な話がないため、県としては動きようがないのが現状である。

(副委員長)

森林・山村多面的機能発揮対策交付金が終了することになれば、団体をソフトランニングさせるには、こういった事業が大切ではあるため対応をじっくり考えて検討してほしい。

(事業担当課)

もう少ししたら林野庁から森林・山村多面的機能発揮対策交付金の話が出てくると思うので、それをもって判断していくことになる。

(委員)

山の一日先生の補助の仕組みはどういった方法か。

森と緑の会に申請すると補助が下りる形になっているが、申請件数は何件か。

(事業担当課)

申請は5団体からあり、実績は134件である。

(委員)

実際にこうち山の日(11月11日)にやっているイベントの回数は分かるか。

山の日 of 普及として行っていると思うので、その日にどれくらいイベントを開催しているのか。

(事業担当課)

こうち山の日が土日であれば開催されるが、それ以外であればその前後に開催されることはある。

(委員)

これは次年度以降のことと思うが、世界や日本で見た場合、「アースデイ」であればその日は世界中で開催されており、同じように、この日は「こうち山の日」とすれば、その期間中は各地で関連するイベントが開催されれば認知度も上がるのではないかな。

また、定額でもいいので関連するイベントの開催に補助すれば、みんなの共通認識として認知されれば、長い目でみれば費用対効果としていいのではないかな。

今は森と緑の会を通じて特定の団体に補助となってしまっているため、認知度が上がっていないのではないかな。

(副委員長)

林業関係者だけではなく、例えば飲食店とかを含めて行うイベントでいいのかな。

(委員)

いいと思う。広めてイベントを開催すればもっと幅広い人が「こうち山の日」を知るきっかけにはなるのではないかな。

趣旨とはかけ離れるが意見として述べさせていただいた。

(委員長)

「こうち山の日」の普及については、やはり認知度が低いとのことなので、なにか大きな共通のイベントも必要なのでぜひ検討していただきたい。

～運営委員会等開催費(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

質問は特になし

～木の香るまちづくり推進事業(木材産業振興課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(副委員長)

資料のP28のアウトプットの活動指標で中間値が実績値より多いのはなぜか。

(事業担当課)

年度末にかけて実績報告がありその段階で減額となったためである。

今年度は林業事務所を通じ、速やかに完成するよう指導していく。

～森林保全作業安全研修委託事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

質問は特になし

【2】平成28年度森林環境税活用事業の概要について

(事務局) 資料に基づき説明

(委員)

平成28年度の事業にある指定管理鳥獣捕獲等事業とあるが、これはどういった事業か。

(事務局)

この事業は鳥獣対策課の事業で、内容は業者に委託して事業を行うと聞いている。

(事務局)

施設の指定管理ではなく、今年度から認定資格を受けた業者に捕獲を委託することとなる。

(委員)

私も聞こうとしていたことなのだが、昨年度まで実施していたワナ配布の方はある一定の役目を終えたので、難しいところで捕獲をすることを指定業者へ委託する事業か。

(事務局)

はい、地形が急峻なところの捕獲をプロに任せることで、生息頭数を減らすことを目的としている。

(委員)

今まで行っていたワナ配布事業での効果は、農作物の被害額としてその効果が表せていたが、今度の事業では効果指標が頭数になるため、どちらが良かったのか比較が難しくなるため、今までの捕獲頭数の数字も残しておいて、今後比較できるようにしてほしい。

(事務局)

ワナの配布事業自体は今後も継続して調査するが、森林環境税を活用した事業としては修了することとなる。

また、捕獲頭数について調査が行われているため、比較はできるかと思う。

その件については、事業担当課へもお伝えしておく。

【3】平成28年度森林環境税活用事業一覧について

(事務局) 資料に基づき説明

質問は特になし

3. その他

(事務局) 今後のスケジュールを説明

ほか、特になければ、今日の委員会を終了する。

以上で閉会